

鹿沼詩友会第146回(2005・11月号)

寸評と資料

2006・2・12

講師 小林 守

2006年はじめての例会です。今年も楽しく続けていきましょう。ところで、  
昨年暮れに印刷発注した「かぬま詩草2006」が出来上がりました。  
やはり印刷された冊子になると立派に見えるものですね。出品者1人15冊を  
配分いたします。有効にお使い下さい。今回の寸評は、みなさんの作品の素材  
をもとに、私の作法で作り変えてみました。失礼

1 ハリケーン (小太刀美恵子)

大型ハリケーンが荒れ狂う  
大統領もうろたえる

病んだ地球のストレスを解消する  
避難民が救助を訴えても無駄だ

あなたは レット・バトラー  
わたしは スカーレット・オハラ

強い男に引かれる  
野生の女

2 山茶花 (油井 巴)

静かに心をたもて  
つまずきの茨の道に  
老いをえらび

一輪の山茶花

庭にさいて  
ぼろぼろ  
秋は途方に  
暮れてゆく

3 子午線からの警告 (駒橋きみ子)

はてしない昨日  
天頂を見上げる嬰兒の目には  
子午線の祀りの声が聞えていた

静寂の花の安らぎを破り  
いま天頂からのながめは  
怒りに満ちている  
欲望という悲の一色

4 涙 (伊藤賢治)

ふるさとの海に  
やがてわたしは帰る  
その日までに  
涙の荷物は降ろしておこう

終わりの来る  
その日までは  
何度でも引き戻せ  
涙よ  
わたしの今に  
ありのままに  
涙よ  
そのために遣わされた  
古からの使者たち

5 靴 (武田裕也)

靴が合わなければ ぼくは走らない  
窮屈な靴なら 脱ぎ捨てたままでいい  
そのゆるぎない決意 ぼくがぼくに帰ること  
真新しいランニングシューズをはいて  
もう一度ぼくは 気負いのない  
ぼくの詩を書く

